

2018年漁業センサス(速報)からみた鳥取県の漁業

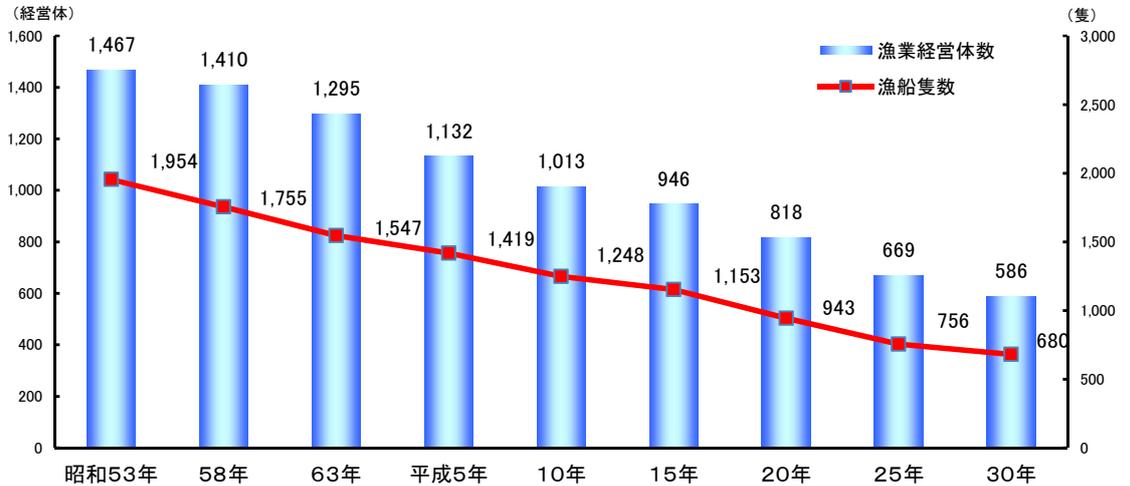
漁業センサスは、漁業の生産構造や就業構造を明らかにし、漁村、流通・加工業等、漁業をとりまく実態と変化を総合的に把握するため、水産業を営んでいる全ての世帯や法人を対象に5年ごとに行われています。

漁業経営体数と漁船隻数の推移

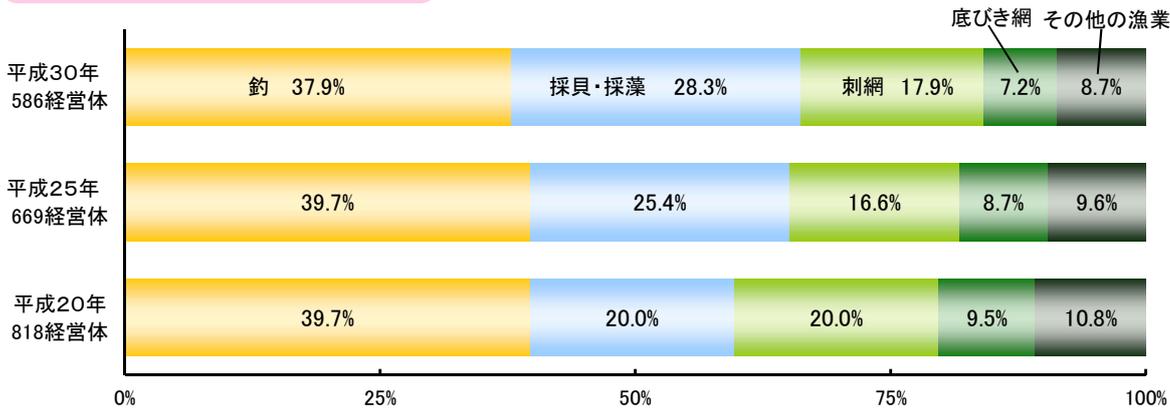
[2018年漁業センサス(平成30年11月1日現在)]

鳥取県の海面(中海を含む)漁業の漁業経営体(世帯又は事業所)数は586経営体で、昭和53年以降減少を続けており、前回調査と比べて12.4%減少し、平成5年からの25年間で約半減しました。

漁業経営体が保有する漁船隻数は680隻で、前回調査と比べ10.1%減少しました。



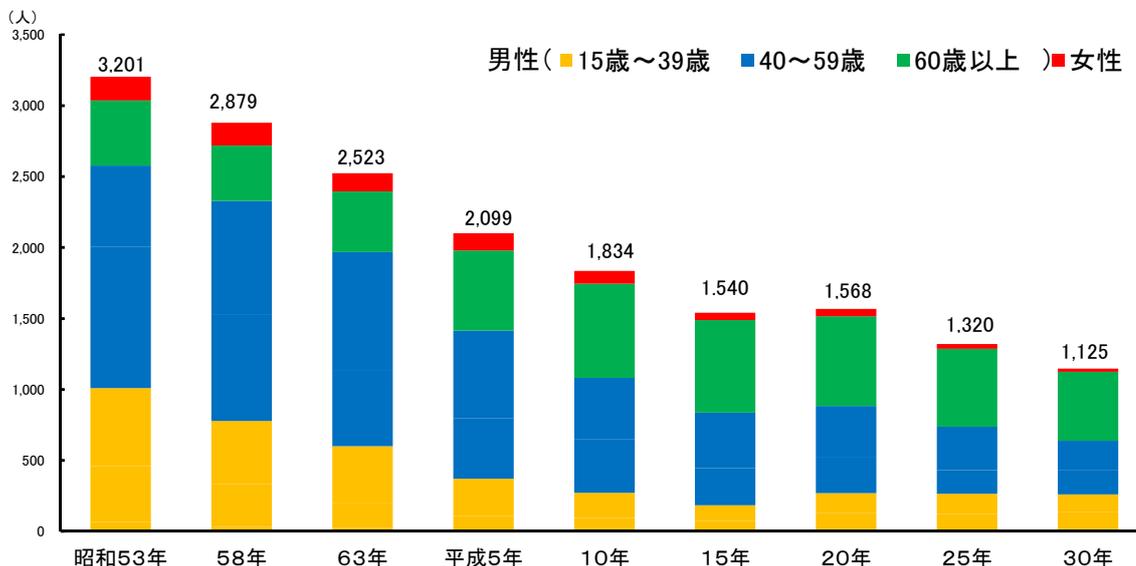
主とする漁業の種類



漁業経営体が主として営んだ漁業種類を見ると釣、採貝・採藻、刺網、底びき網の4種が大部分を占めています。

前回調査と比べて採貝・採藻、刺網の割合が増え、釣、底びき網の割合が減っています。

漁業就業者の推移



漁業就業者の総数は、1,125人で平成5年から25年間で53.6%減少し昭和53年から約40年間で1/3の減少となりました。

男性の内訳を見ると、60歳以上の割合が全体の42.5%と一番高くなっています。

一方、39歳以下の割合は前回調査と比べ2.9ポイント増加しており、わずかですが若年化の傾向がうかがえます。

なお、漁業就業者に占める女性の割合は2.0%となっています。